

## 研究

乳児と養育者の電子メディア接触の実態および生活習慣と  
きょうだい数の関連The relationship between infants' and parents' electronic media contact and daily lifestyle  
with number of siblings

甲斐 鈴恵

Suzue Kai

## 抄録

本研究では、乳児と養育者の電子メディア接触の実態および生活習慣ときょうだい数の関連を明らかにした。こども園の乳児の養育者へ無記名式郵送調査、150世帯から回答を得た。電子メディア接触時間および各質問項目間の分析には、IBM® SPSS® Statistics Ver. 25を用いた。乳児の電子メディア接触時間の平均は、平日61.2分、休日87.0分であった。WHO推奨の1時間以内が7割を占めていた。きょうだいなしの乳児の約5割が、電子メディアに2時間以上接触していた。養育者の子育てにおけるスマホの利用目的は、きょうだい数にかかわらず、写真を撮る8割、情報検索が5割であった。子どもを静かにさせる目的は、きょうだい数が増えると利用の割合が増加した。きょうだいなしの乳児が、電子メディアに長時間接触となる傾向があることから、乳児のみの養育者へ早期から長時間の電子メディア接触を避けることを意識した生活を啓発する重要性が示唆された。

## Abstract

The present study aimed to clarify the relationship between the actual condition of infants' and parents' electronic media contact and daily lifestyle with how many siblings infants had. An anonymous survey was conducted by mail of parents of infants attending authorized nursery schools. Responses were received from 150 households. Data on electronic media contact time were collected, and question items were analyzed using IBM SPSS. Infants' average electronic media contact time was 61.2 minutes on weekdays and 87.0 minutes on holidays. Seventy percent of infants' electronic media contact was within one hour, which is the time recommended by the World Health Organization. About 50% of the infants without siblings were exposed to electronic media for more than two hours. Concerning parents' smartphone use during child-rearing, regardless of the number of siblings, 80% was for taking pictures, and 50% was for searching for information. The use of smartphones to keep children quiet increased as the number of children increased. Infants without siblings tended to be exposed to electronic media for longer periods of time, suggesting the importance of educating parents of infant-age children about the importance of avoiding prolonged exposure to electronic media from an early stage in their children's lives.

キーワード：乳児、養育者、電子メディア接触時間、きょうだい、生活習慣

Key Words：infant, parents, electronic media contact, siblings, daily lifestyle

## I. はじめに

20世紀後半から21世紀にかけて、テレビ、ビデオ、テレビゲーム、パソコン、携帯電話など電子映像メディアが急速に普及し、子どもたちの生活にも変化が現れ、こころやからだ、社会関係に影響が現れている。特にインターネットの本格的な普及が始

まった2000年以降、国内外において、子どもとメディアに関する調査研究に、メディア研究・心理学・教育学・社会学・小児医学・看護学などさまざまな分野の研究者が取り組んでいる。

首都圏を中心とする全国調査(久保木, 田村, 高岡, 2018)から、電子メディア接触の低年齢化・長時間化が明らかとなった。これらの課題は、都市部

に限定された課題であるのか、地方においても同様の課題があるのかを明らかにする目的で、筆者らは2017年「乳幼児親子の電子メディア接触実態調査」を実施した。その結果、地方においても、電子メディア接触の低年齢化・長時間化が明らかとなった(甲斐, 吉田, 2018)。さらに、0歳児の42.6%がすでに電子メディアに接触していることや5時間以上接触している乳幼児がいること、さらに、乳幼児の電子メディア接触時間と親子の生活習慣(起床時間・就寝時間、朝食摂取の有無)の相関関係があることが明らかになった。幼児期以降は、子どもの成長発達と重ね、歩く・微細運動を伴う操作ができるなどの行動範囲が広がることから、電子メディアに近づき自由自在に操作できる環境下では自ら電子メディアに接触することができるかと予測した。一方、乳児期は、養育者によって食事・排泄・睡眠などのすべての生活習慣が作り出されており、また、電子メディアが乳児の周囲になれば接触することはない。そのため、養育者が乳児に対して電子メディアに接触する環境を積極的につくらなければ、乳児が電子メディアに接触する機会は少ないと予測した。子どもは、周囲の環境に影響され育まれるため、きょうだいや養育者の与える影響は大きいと考えた。初めて乳児を育てる養育者には閉鎖的育児環境の中で育児不安がある(松原, 糸谷, 小路他, 2009)ことや、2人目を育てている養育者が1人目の養育者より育児不安の得点が高い(吉田, 山中, 巷野他, 2001)などが報告されている。このように、きょうだい数によって乳児に対する養育者の思いや言動にも違いが現れるのではないかと考え、きょうだい数の違いによる電子メディア接触の実態や生活習慣などの関連について明らかにしたいと考えた。乳児に関する電子メディア接触時間に関する詳細の調査報告は少ないため、2017年度の実態調査をもとに乳児期に着目し、乳児と養育者の電子メディア接触の実態などにおけるきょうだい数の違いによる関連の詳細について再分析を試みた。

本研究の目的は、乳児と養育者の電子メディア接触の実態および生活習慣に影響を及ぼす要因として、きょうだい数に着目した分析から関連を明らかにし、今後の啓発活動における示唆を得ることである。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 研究デザイン

量的研究

### 2. 対象

A県認定こども園に通っている乳児の養育者。

### 3. 調査期間

2017年8月10日～9月20日

### 4. 調査内容

無記名式質問紙調査：B県C市保育会・私立保育園協会園児生活実態調査(玉名市保育会, 2013)の調査用紙使用許可を得て加筆修正・改変し、新たに調査用紙を作成した。

- 1) 質問紙の内容は、同居家族の有無、起床・就寝時間(乳児・養育者)、朝食摂取の有無(乳児・養育者)などの生活習慣、絵本の読み聞かせの有無、親子のかかわり方について、2～5の選択肢を提示した。質問は合計26項目。
- 2) 電子メディア接触について、①子どもと養育者それぞれについて、24時間表に接触時間を直線で記入、②子どもの使用目的、③養育者の使用目的などについて、多肢選択・複数回答を提示した。

本調査では、テレビ・ゲーム・ビデオ・パソコン・携帯電話・スマートフォン・インターネットなどを電子メディアと定義した。

### 5. 調査方法

本調査は地域貢献等研究推進事業として非営利団体「子どもとメディアみやざき」と連携して行った。

- 1) A県幼稚園連合会、一般社団法人保育連盟連合会、幼保連携型認定こども園の会長・理事長へ調査協力依頼を行った。
- 2) A県内全域から人口割合に応じてランダムに20園を選定した。県央8園、県北5園、県西5園、県南2園。2,157世帯、園児数2,658名。
- 3) 各園長へ、養育者への研究協力依頼と調査用紙の配布・回収、回収期日以降に研究者へ返信封筒にて郵送頂けるよう依頼した。
- 4) 調査用紙が提出されたことをもって研究への同意を得たとみなした。

## 6. 分析方法

基礎調査項目については単純集計を行った。電子メディア接触時間については、24時間表に記入された直線を30分単位で計測し集計を行った。また、電子メディア接触時間については、2004年に日本小児科医学会が電子メディアに接触する時間の目安を2時間までと提言したことから、接触なし、2時間未満、2時間以上にカテゴライズして分析を行った。養育者の電子メディア接触時間については、5つにカテゴライズした。1日(24時間)から睡眠時間や食事・排泄などの生活行動に最低限必要な時間を除く活動時間を、約15時間程度と算出した。活動時間の15時間を基本として、乳児と同様の区分のほか、1/3未満、または、2/3未満を目安として分類し、接触なし、2時間未満、5時間未満、10時間未満、10時間以上とした。きょうだい数別に、乳児および養育者の電子メディア接触時間をカテゴライズしたもの、そして生活習慣の状況を人数と割合で示した。また、きょうだい数と乳児および養育者の電子メディア接触時間をカテゴライズしたもの、そして生活習慣とのSpearmanの相関係数を算出し、相関係数の検定を行った(表1)。さらに、乳児と養育者の電子メディア接触時間の関連をみるために、養育者の電子メディア接触時間(5区分)別に乳児の電子メディア接触時間(3区分)の割合を帯グラフに示し、Spearmanの相関係数と相関係数の検定 $p$ 値を示した(図2)。 $p=0.05$ を有意水準とし、分析にはIBM® SPSS® Statistics Ver. 25を用いた。

## 7. 倫理的配慮

筆者が所属する機関の倫理審査委員会の承認を得た。養育者への依頼文書には、研究の目的および研究への参加の有無は本人の自由意思であること、断っても不利益がないこと、封書で提出するため園長、他職員に個人情報が開示されないことを明記した。園長への依頼文書には、各園が特定されないこと、個人情報に関する内容は伏せること、全員分の回収をお願いすることはないことなどを明記した。

# Ⅲ. 結果

## 1. 有効回答数

県央8園、県北5園、県西5園、県南2園、合計

20園の1,675世帯(回収率77.7%)から回収し、乳児について回答のあった150世帯を本研究の分析対象とした。

## 2. 属性

150名の乳児の月齢構成は、6か月未満38名(25.3%)、7か月~9か月未満39名(26.0%)、10か月~12か月未満38(25.3%)名、詳細未記入者35名(23.4%)であった。

きょうだいなし23名(15.3%)、きょうだい2名(上に1名、以下略)90名(60.0%)、きょうだい3名(上に2名、以下略)37名(24.7%)であった。

## 3. 乳児の電子メディア接触時間について(表1)

### 1) 平日における電子メディア接触時間

乳児の平日における電子メディア接触の平均時間(標準偏差)は、61.2(97.2)分であった。電子メディア接触なし86名(57.4%)、2時間未満26名(17.3%)、2時間以上38名(25.3%)であった。

### 2) 休日における電子メディア接触時間

乳児の休日における電子メディア接触の平均時間(標準偏差)は、87.0(138.1)分であった。電子メディア接触なし89名(59.4%)、2時間未満14名(9.3%)、2時間以上47名(31.3%)であった。

## 4. きょうだい数別による電子メディア接触時間(表1・図1)

### 1) 平日における電子メディア接触時間

きょうだいなしの乳児の平日における電子メディア接触の平均時間(標準偏差)は、88.7(75.4)分であった。最小値0分、最大値300分。きょうだい2名の乳児の平均時間(標準偏差)は、71.6(112.0)分であった。最小値0分、最大値510分。きょうだい3名の乳児の平均時間(標準偏差)は、18.7(44.9)分であった。最小値0分、最大値240分。

きょうだい数と電子メディア接触時間の相関係数を算出したところ、弱い負の相関( $\rho = -.364$ ,  $p < .001$ )がみられ、きょうだい数が少ないほど、電子メディア接触時間が長時間であった(表1・図1)。

### 2) 休日における電子メディア接触時間

きょうだいなしの乳児の休日における電子メディア接触の平均時間(標準偏差)は、148.7(136.7)分であった。最小値0分、最大値510分。きょうだい2名の乳児の平均時間(標準偏差)は、95.3(149.1)

表1 きょうだい数別にみた乳児と養育者の電子メディア接触時間および生活習慣

	全体 (n=150)		きょうだいなし (n=23)		きょうだい2人 (n=90)		きょうだい3人 (n=37)		$\rho^{\dagger}$
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	p値 <sup>#</sup>
乳児の平日電子メディア接触時間									
接触なし	86	57.4	4	17.4	54	60.0	28	75.7	
2時間未満	26	17.3	8	34.8	10	11.1	8	21.6	-0.364
2時間以上	38	25.3	11	47.8	26	28.9	1	2.7	<0.001
平均、分		61.2		88.7		71.6		18.7	
最大、分		510.0		300.0		510.0		240.0	
乳児の休日電子メディア接触時間									
接触なし	89	59.4	4	17.4	55	61.1	30	81.1	
2時間未満	14	9.3	6	26.1	5	5.6	3	8.1	-0.369
2時間以上	47	31.3	13	56.5	30	33.3	4	10.8	<0.001
平均、分		87.0		148.7		95.3		28.4	
最大、分		600.0		510.0		600.0		360.0	
養育者の平日電子メディア接触時間									
接触なし	5	3.3	1	4.3	4	4.4	0	0.0	
2時間未満	15	10.0	2	8.7	7	7.8	6	16.2	
2~5時間未満	69	46.0	13	56.5	40	44.4	16	43.2	
5~10時間未満	57	38.0	6	26.1	36	40.0	15	40.5	0.016
10時間以上	4	2.7	1	4.3	3	3.3	0	0.0	0.85
平均、分		256.6		219.1		274.3		236.8	
最小、分		0.0		0.0		0.0		60.0	
最大、分		840.0		600.0		840.0		540.0	
養育者の休日電子メディア接触時間									
接触なし	20	13.3	1	4.3	16	17.8	3	8.1	
2時間未満	10	6.8	2	8.7	3	3.3	5	13.5	
2~5時間未満	47	31.3	10	43.5	23	25.6	14	37.8	
5~10時間未満	59	39.3	8	34.8	38	42.2	13	35.1	-0.056
10時間以上	14	9.3	2	8.7	10	11.1	2	5.4	0.49
平均、分		287.6		266.1		309.4		248.1	
最小、分		0.0		0.0		0.0		0.0	
最大、分		840.0		780.0		840.0		780.0	
乳児の平日起床時間									
7時前	69	46.3	18	78.3	35	39.3	16	43.2	
7時台	56	37.6	3	13.0	42	47.2	11	29.7	
8時台	19	12.8	2	8.7	11	12.4	6	16.2	0.207
9時台	5	3.3	0	0.0	1	1.1	4	10.8	0.011
乳児の休日起床時間									
7時前	33	23.4	7	31.8	19	22.4	7	20.6	
7時台	64	45.4	8	36.4	40	47.1	16	47.1	
8時台	42	29.8	7	31.8	24	28.2	11	32.4	0.043
9時台	2	1.4	0	0.0	2	2.4	0	0.0	0.61
乳児の平日就寝時間									
20時台	36	26.9	5	22.7	23	28.8	8	25.0	
21時台	62	46.3	10	45.5	34	42.5	18	56.3	
22時台	33	24.6	6	27.3	21	26.3	6	18.8	-0.069
23時以降	3	2.2	1	4.5	2	2.5	0	0.0	0.43
乳児の休日就寝時間									
20時台	25	18.1	3	13.0	17	20.7	5	15.2	
21時台	62	44.9	10	43.5	35	42.7	17	51.5	
22時台	47	34.1	9	39.1	27	32.9	11	33.3	-0.057
23時以降	4	2.9	1	4.3	3	3.7	0	0.0	0.51
就寝前の絵本の読み聞かせ									
いつもしている	64	44.4	5	26.3	44	50.0	15	40.5	
時々している	60	41.7	10	52.6	31	35.2	19	51.4	-0.071
していない	20	13.9	4	21.1	13	14.8	3	8.1	0.40
親子で遊ぶ時間 (平日)									
ない	8	2.7	0	0.0	1	1.1	3	8.1	
1時間未満	57	38.3	11	47.8	34	38.2	12	32.4	0.011
1時間以上	88	59.1	12	52.2	55	60.7	22	59.5	0.90
親子で遊ぶ時間 (休日)									
1時間未満	3	2.1	0	0.0	1	1.1	2	5.6	
1~3時間未満	39	26.7	8	36.4	22	25.0	9	25.0	0.009
3時間以上	104	71.2	14	63.6	65	73.9	25	69.4	0.92
テレビの電源の状態									
いつもついている	11	7.6	1	4.3	9	10.6	1	2.8	
時々ついている	49	34.0	6	26.1	29	34.1	14	38.9	-0.038
消している	84	58.4	16	69.6	47	55.3	21	58.3	0.65
養育者のスマホ利用の目的 (複数回答)									
写真を撮る	115	84.6	16	84.2	68	81.9	31	91.2	
子育ての情報やノウハウを検索	72	52.9	9	47.4	44	53.0	19	55.9	
子どもを静かにさせる	43	31.6	2	10.5	25	30.1	16	47.1	
子どもをあやす	28	20.6	4	21.1	17	20.5	7	20.6	
子どもを叱る	6	4.4	0	0.0	4	4.8	2	5.9	
その他	18	13.2	2	10.5	13	15.7	3	8.8	

† Spearmanの相関係数、# Spearmanの相関係数の検定

分であった。最小値0分、最大値600分。きょうだい3人の乳児の平均時間(標準偏差)は、28.4(80.3)分であった。最小値0分、最大値360分。

平日と同様に、きょうだい数と電子メディア接触時間に弱い負の相関( $\rho = -.369, p < .001$ )がみられ、きょうだい数が少ないほど、電子メディア接触

時間が長時間であった(表1・図1)。

乳児のきょうだいは、30分~8時間の間で電子メディアに接触していた。

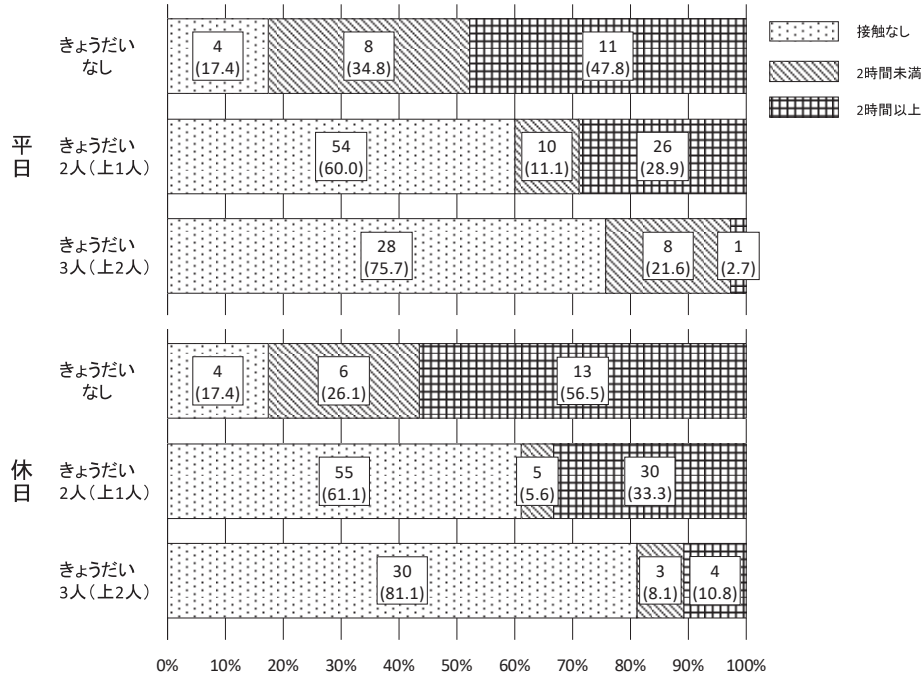


図1 きょうだい数別による乳児の電子メディア接触時間(平日・休日)

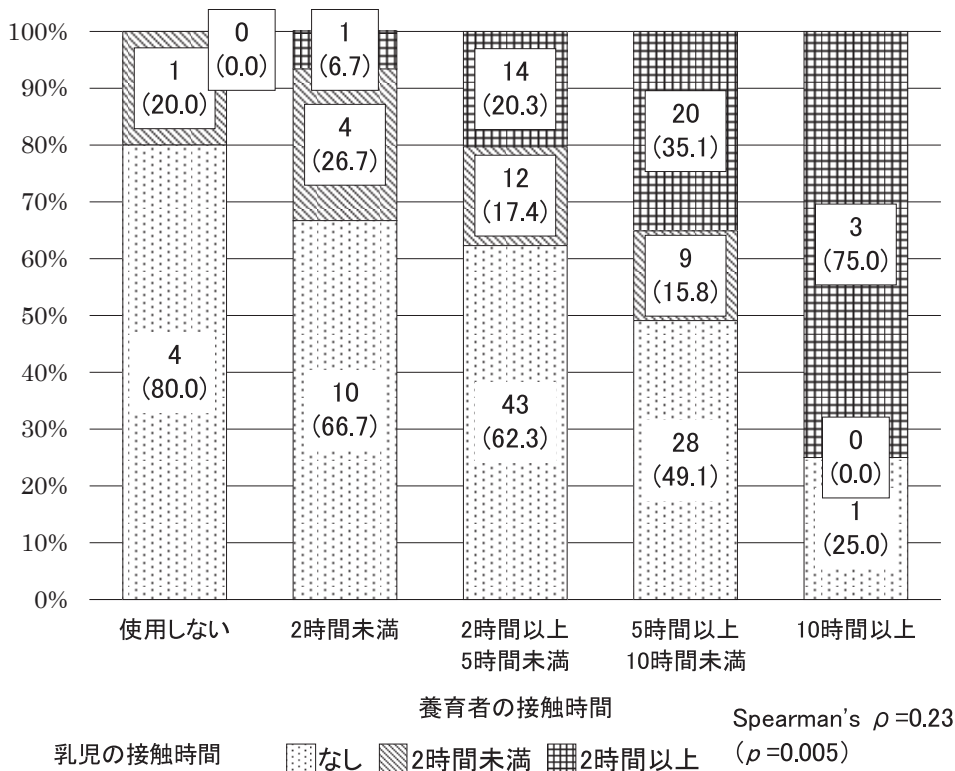


図2 乳児と養育者の電子メディア接触時間の関係(平日)

## 5. 養育者の電子メディア接触時間・目的ときょうだい数別の関連 (表 1)

### 1) 平日における電子メディア接触時間

養育者の平日における電子メディア接触時間は、なし 5 名 (3.3%)、2 時間未満 15 名 (10.0%)、2 時間以上 5 時間未満 69 名 (46.0%)、5 時間以上 10 時間未満 57 名 (38.0%)、10 時間以上 4 名 (2.7%) であった。

きょうだい数と養育者の電子メディア接触時間には相関はみられなかった。

子どもが乳児のみの養育者の電子メディア接触時間の平均時間 (標準偏差) は、219.1 (156.5) 分であった。最小値 0 分、最大値 600 分。きょうだい 2 名の養育者は、274.3 (158.7) 分であった。最小値 0 分、最大値 840。きょうだい 3 名の養育者は、236.8 (117.4) 分であった。最小値 60 分、最大値 540 分。

### 2) 休日における電子メディア接触時間

養育者の休日における電子メディア時間は、なし 20 名 (13.3%)、2 時間未満 10 名 (6.8%)、2 時間以上 5 時間未満 47 名 (31.3%)、5 時間以上 10 時間未満 59 名 (39.3%)、10 時間以上 14 名 (9.3%) であった。

きょうだい数と養育者の電子メディア接触時間には相関はみられなかった。

子どもが乳児のみの養育者の電子メディア接触時間の平均時間 (標準偏差) は、266.1 (181.9) 分であった。最小値 0 分、最大値 780 分。きょうだい 2 名の養育者は、309.4 (229.8) 分であった。最小値 0 分、最大値 840 分。きょうだい 3 名の養育者は、248.1 (179.0) 分であった。最小値 0 分、最大値 780 分。

### 3) 子育てにおけるスマートフォン利用の目的 (複数回答)

詳細については、表 1 に示す。子育てにおいてスマートフォンを利用している養育者は、136 名 (90.7%) であった。スマートフォンを利用している養育者の目的は、きょうだいの有無にかかわらず、写真を撮る目的が 8 割以上を占め、次いで子育ての情報やノウハウの検索が 5 割程度であった。子どもをあやす目的の利用は 2 割程度であった。きょうだいが 2 名・3 名と増えるに従い、子どもを静かにさせる目的の利用の割合が、3 割・5 割に増加していた。

## 6. 生活習慣ときょうだい数別の関係 (表 1)

### 1) 起床時間・就寝時間

きょうだい数と平日の起床時間との間に弱い正の相関 ( $p = .207$ ,  $p = .011$ ) が認められたが、平日の就寝時間、休日の起床時間・就寝時間では相関はみられなかった。

### 2) 就寝前の絵本の読み聞かせ

乳児への就寝前の絵本の読み聞かせは、乳児全体では、いつもしている 64 名 (44.4%)、時々している 60 名 (41.7%)、していない 20 名 (13.9%) であった。きょうだい数との相関はみられなかった。

### 3) 親子で遊ぶ時間

親子で遊ぶ時間は、平日の乳児全体では、なし 8 名 (2.7%)、1 時間未満 57 名 (38.3%)、1 時間以上 88 名 (59.1%) であった。休日の乳児全体では、1 時間未満 3 名 (2.1%)、1 時間以上 3 時間未満 39 名 (26.7%)、3 時間以上 104 名 (71.2%) であった。きょうだい数との相関はみられなかった。

### 4) 日常生活のテレビの電源の状態

日常生活においてテレビの電源がついている、または、消しているという電源の状態は、乳児全体では、いつもついている 11 名 (7.6%)、時々ついている 49 名 (34.0%)、消している 84 名 (58.4%) であった。きょうだい数との相関はみられなかった。

## 7. 乳児と養育者の電子メディア接触時間との関連

養育者の電子メディア接触時間別に乳児の電子メディア接触時間の割合を図 2 に示した。乳児と養育者の電子メディア接触時間の相関をみたところ、弱い正の相関 ( $p = .23$ ,  $p = .005$ ) がみられ、養育者の電子メディア接触時間が長くなると、乳児の電子メディア接触時間も長くなっていった。特に、養育者の電子メディア接触時間が 2 時間未満の場合には、乳児の電子メディア接触時間は、ほぼ 2 時間未満に抑えられており、乳児の電子メディア接触時間は養育者の電子メディア接触時間よりも短かった。しかし、養育者の電子メディア接触時間が 2 時間以上、5 時間以上、10 時間以上になると、順に 2 割、3 割、7 割以上の乳児が、電子メディア接触時間は 2 時間以上となっていた。休日も同様の傾向であった。

## Ⅳ. 考 察

### 1. 乳児の電子メディア接触について

乳児の電子メディア接触の平均時間は、平日 61.2 分、休日 87.0 分であった。世界保健機関 (2019) はスクリーンタイムなどで拘束される時間の目安として、1 歳以下は 1 時間以下を推奨している。今回の調査結果では、150 名中 108 名 (72.0%) が推奨されている 1 時間以内であった。しかし、電子メディア接触頻度は年々増加が著しい (久保木, 田村, 高岡, 2018) こと、1 歳を超えると接触時間が一気に 2 時間を超える (甲斐, 吉田, 2018) ことも報告されている。乳児期の接触時間が 1 時間以下の状態を維持できるような啓発活動が重要である。一方、平日に電子メディアに 510 分接触している乳児がいることも明らかになった。特異な値であるため、今度このような事例に出合った場合、どのような生活を送っているのか個別な分析も必要と考える。

伊藤, 秋山, 石黒他 (2005) はテレビやビデオのついている部屋で 9 割以上の子どもが過ごしていると報告している。今回の調査では、テレビの電源は、誰も見ていない時には約 6 割程度が「消している」習慣があることが明らかになった。誰も見ていない時でも、いつもついていると回答した養育者が 1 割に満たないことから、常にテレビの電源がついている環境で過ごしている乳児が少ないこともわかった。これらは、テレビを見ていない時間は電源を消すことを推奨するリーフレットなどによる教育啓発活動の効果であるのか、もしくは、常にテレビを見ている状態であるのか、テレビ離れによるスマートフォンなどの活用によるものか、今後詳細な分析が求められる。

### 2. 乳児の電子メディア接触時間ときょうだい数の関連

平日・休日ともに、きょうだいなしの乳児の電子メディア接触時間が、きょうだい 2 名・3 名と比較すると長時間の占める割合が高かった。きょうだい数が少ないほど、乳児の電子メディア接触時間が長時間の傾向にあり、Spearman の相関係数の検定による有意差が認められた (表 1、図 1)。

きょうだいなしの乳児では、養育者は初めての子育て経験となる。乳児は自分の状態を言葉で十分に表現することができないため、養育者は乳児が何を

求めているのか、反応をどのように読み取ってよいか戸惑うことが多いと思われる。また、どのように子どもと接してよいか、子どもが喜ぶことは何か、模索している状態であると予測する。さらに、現在では感染症対策防止のために、外出に制限がかかっている。松原, 糸谷, 小路他 (2009) は、初めて乳児を育てる母親には育児不安があり、閉鎖的育児環境の中で切羽詰まった状況にあることを報告している。そのような中、乳児と 1 対 1 かつ密室で向き合わざるを得ない状況では、乳児が電子メディアを見ている姿や喜ぶ姿などの反応した体験が、電子メディアを活用しようという動機につながると予測される。一方、長時間に及ぶ電子メディア接触による心身の悪影響が報告 (伊藤, 秋山, 石黒他, 2005) されている。養育者を追い詰めることなく、電子メディア以外のかかわりによって、養育者が乳児と楽しく過ごせ、成長発達を感じ取れる具体的なかかわり方の支援が必要である。現在、乳幼児への電子メディア接触を軽減させることを願った啓発活動が全国各地で行われている。宮崎においても、親子の絆が育まれることを願い、非営利団体「子どもとメディアみやざき」が触れ合いや遊びなどを推奨するリーフレットを作成し、2019 年から乳幼児健診の D 地区で啓発活動を行っている。今後、啓発活動を継続し続けることでその効果が期待される。

きょうだい 3 名の乳児の場合は、上のきょうだいが幼児期または学童期でありテレビ視聴を好む年齢であることを予測し、ともに過ごす時間の増加に伴い電子メディア接触時間が増加すると推測していた。しかし、推測に反して接触時間が少ない理由として、子ども同士のかかわりが豊かになりお互い刺激しあっていることが予測された。一方、きょうだいは 30 分～8 時間の間で電子メディアに接触しているが、全く接触していない乳児が 8 割を占めている事実も明らかになった。これは、上のきょうだいが自力で電子メディア機器の操作が可能となり単独で行動している、または、上のきょうだいが電子メディアに接触しているにもかかわらず、養育者は乳児には意図的に接触させない環境を作っていると推測した。

### 3. 乳児と養育者の電子メディア接触時間および使用目的ときょうだい数の関連

乳児と養育者の電子メディア接触時間について

は、養育者の接触時間が増えると、乳児の接触時間が増える傾向が明らかになった。これは、乳児が養育者とともに過ごす時間が長いことから当然のことである。養育者の電子メディアの接触機会が高い状況下では、乳児も自然と電子メディアに接触する時間が増え関心が高まる。確かに、電子メディアが急速に普及している現代の生活において、全く接触しない生活は困難である。養育者の接触時間が短いほど、乳児に電子メディアを接触させていない傾向であることも、明らかになった。養育者が電子メディアを活用する際の基準を設け、その範囲内で上手に活用することができれば、乳児の不用意な電子メディアの長時間接触を避けることにつながると期待できる。乳児期は、人との触れ合いや五感を刺激するかかわりによって育まれる時期であること、心身の成長発達が著しい時期であることを養育者に伝え、乳児期の長時間接触を避け電子メディアに頼りすぎない育児方法を推奨する啓発活動が重要となる。

養育者が、子育てにおいてスマートフォンを利用する目的は、きょうだい数にかかわらず、子育ての情報やノウハウの検索が5割程度を占めていた。乳児期の成長発達は著しく、離乳食の開始、行動範囲の広がり、不慮の事故防止、成長発達に応じた遊び、また、感染症罹患時には受診するなど、養育者にとって初めての経験が多い(中野, 2019)。したがって、初めての子育てとなる養育者が、ほかと比較して検索目的の利用が多いと予測したが、きょうだい数にかかわらず同様の割合であった。養育者の世代は、中学・高校生の頃よりスマートフォンなどの電子メディア機器が普及(総務省情報通信政策研究所, 2019)しており、電子メディア接触への抵抗が少ないと考えられる。養育者は子育てに疑問が生じると子育ての情報を身近な相談相手のほか、電子メディア機器を通して得ることも多い。養育者は子育てにおいて常に新たな情報を求めていること、電子メディア機器はより身近な存在となり情報源となっていることが明らかになった。

子育てにおいてスマートフォンを利用する目的に、子どもを静かにさせる目的があった。乳児のみの養育者は、1割であったが、きょうだいが2名・3名と増えるに従い、3割・5割へと利用の割合が増加傾向にあった。きょうだい数が増えるに従い親子の行動範囲が広がり、きょうだいとともに乳児も公共の場に行く機会が増え静かに過ごすことが求められ

るのではないかと考える。子どもを静かにさせるためにおもちゃや絵本などの複数のものを準備することは養育者にとって負担が大きいため、1つで複数の役割を担うスマートフォンは便利である。久保木、田村、高岡(2018)は、子どもが騒ぐ時や親が家事などで手を離せない場面で電子メディアを使うと回答している養育者が、経年比較で増加していることを報告している。子どもの成長に伴い、子どもから目を離せない状況が増え、さらに、きょうだい数が増えることで、乳児だけに手をかけられない場面が増える。本結果から、きょうだい数とスマートフォンを静かにさせる目的で利用することの関連が明らかになった。

## V. 本研究の限界と今後の課題

本研究の限界・課題として、分析対象数が少ないため、今後、より多くの対象数をもとに分析を重ねる必要がある。また、乳児の電子メディア接触の実態の詳細を分析するにあたって、きょうだいの年齢および養育者の年齢や就業の有無などの複数の項目について調査を行い、検討する必要がある。

## VI. 結論

乳児と養育者の電子メディア接触の実態および生活習慣ときょうだい数別による関連として、以下のことが明らかになった。

1. 乳児の電子メディア接触平均時間は、平日 61.2 分、休日 87.0 分であった。WHO が推奨している 1 時間以内が 7 割を占めていた。
2. きょうだいなしの乳児の約 5 割が、電子メディアに 2 時間以上接触していた。きょうだい数が少ないほど、電子メディアに長時間接触する割合が高かった。
3. 養育者の子育てにおけるスマートフォン利用の目的は、きょうだい数にかかわらず、写真を撮るが 8 割以上、情報検索が 5 割程度を占めていた。きょうだい数が 2 名・3 名と増えるに従い、子どもを静かにさせる目的での利用が増加していた。
4. 養育者の電子メディア接触時間と、乳児の電子メディア接触時間は関連していた。
5. 生活習慣においては、平日の起床時間を除き、きょうだい数別による有意な差はなかった。



きょうだいなしの乳児が電子メディアに長時間接触となる傾向があるため、乳児のみの養育者へ早期から長時間の電子メディア接触を避けることを意識した生活を啓発する重要性が示唆された。

**謝 辞** 本研究にご協力いただいた幼保連携型認定こども園園長の皆様、養育者の皆さまに心より感謝申し上げます。

本研究は、2017年度乳幼児親子の電子メディア接触実態調査の一部であり、日本小児看護学会第29回学術集会にて発表した内容に加筆・修正した。

本研究における開示すべき利益相反はない。

## 文 献

- 伊藤幸生, 秋山千枝子, 石黒成人 他 (2005). 「子どもとメディア」に関する意識調査0歳から2歳児のメディア環境の現状について—テレビやビデオ視聴2時間の影響—. 日本小児科医会会報, 30, 120-125.
- 甲斐鈴恵, 吉田幸代 (2018). 乳幼児の電子映像メディア接触時間実態と今後の課題—宮崎県内認定こども園等に通う子どもの保護者アンケート調査から—. 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報, 平成29年度版 (第7号), 13-21.
- 久保木有希子, 田村徳子, 高岡純子 (2018). 第2回 乳幼児の親子のメディア活用調査報告書. 木村治生(編). (株)ベネッセ教育総合研究所 研究所報, 68, 17-52.
- 松原まなみ, 糸谷哉子, 小路ますみ 他 (2009). はじめて乳児を育てる母親の育児不安と家族機能に関する研究. 聖マリア学院紀要, 23, 39-48.
- 中野綾美 (2019). 第2章 子どもの成長・発達と看護. 小児の発達と看護—小児看護学①第6版(pp.76-99). メディカ出版.
- 世界保健機関 (2019). Guidelines on physical activity, sedentary behaviour and sleep for children under 5 years of age. 2020年8月31日アクセス, <http://www.who.int/iris/handle/10665/311664>
- 総務省情報通信政策研究所 (2019). 平成30年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書. 2020年9月15日アクセス, [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000644166.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000644166.pdf)
- 玉名市保育会, 玉名市立保育園協会 (2013). 平成25年度玉名公私立保育所(園) 第2回園児生活実態調査報告—各園メディア担当者委員会まとめ 報告書.
- 吉田弘道, 山中龍宏, 巷野悟郎 他 (2001). 2人目の子どもを育てている母親は育児不安が軽いのか. チャイルドヘルス, 4(10), 766-769.